

事業名 CD	0103050103	静心寮管理運営事業
細分化した事業名	静心寮事務費・静心寮生活費	
事業担当課室 CD	200500	静心寮
		整理コード

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	誰もが安心して暮らせるまちづくり
	中項目	地域の絆を深める福祉社会の実現
	小項目	高齢者福祉の充実
関連する個別計画等		根拠条例等 老人福祉法第13条・静心寮管理規定
関連する事業		

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	入寮者が安心して健康的な生活ができるように養護する。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	入寮者 (入寮対象者：65歳以上であって、環境上の理由及び経済的理由により居宅において養護を受けることが困難であり、各市町村が措置決定した者。)
これまでの改善経過	H 9 施設改修 1,380㎡ H22 スプリンクラー設置工事
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	<p>〈実施・運営方法〉 <input checked="" type="checkbox"/>市 <input type="checkbox"/>委託 <input type="checkbox"/>補助金 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>施設の維持管理運営を行う。</p> <p>施設名称 養護老人ホーム「韮崎市立 静心寮」 施設概要 鉄筋コンクリート平屋建 居室・6帖/19室、12帖/3室 静養室7床 定員 50名 事業 入寮者の日々の生活支援・養護 誕生会・慰問・盆踊り大会・日帰り旅行等各種行事</p>
事業の成果 (どのような状態にしたいのか) (どのような効果を得るのか)	施設の適切な維持管理運営を行う。 入寮者が安心して健康的な生活ができるように支援する。

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度	21年度	22年度
A	事業費 (千円)	48,398	51,141	78,062
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金		30	56
	市債			
	その他	25,104	32,420	31,520
	一般財源	23,294	18,691	46,486
B	担当職員数(非常勤 職員E) (人)	5 12	7 10	9 10
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	82,908	68,230	67,275
D	総事業費(A+C) (千円)	131,306	119,371	145,337
*参考	H22)市民1人当りの事業コスト	4,541 円	H22)市民1人当りの行政サービス費用	599,027 円

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。

注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。

注3)一般財源とは使途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			20年度	21年度	22年度
活動指標	入寮定員	(人)	50	50	50
	平均入寮者数 (算出式数値)	延入寮者数/開寮日数 (人) (15,070人/365日)	45.49	43.15	41.29
	行事実施数		130	124	123
成果指標	行事参加率 (算出式数値)	平均参加者数/平均入寮者数 (%) (27.8 / 41.29)	29.2	29.1	27.8
	入寮率 (算出式数値)	平均入寮者数/定員 (%) (41.29人/50人)	64.19	67.44	67.33
効率指標	措置費用割合 (算出式数値)	総措置費/総事業費 (%) (96,945千円/145,337千円)	82.26	84.32	66.70
	一人一日当たりコスト (算出式数値)	総事業費/平均入寮者数/開寮日数 (円) (145,337千円/41.29/365日)	7,908	7,579	9,644

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当である <input type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 環境上の理由及び経済的理由において、自立出来ない高齢者は増加傾向にある。地域社会の施設として存在し、利用者に安心して心豊かに暮らせる場所としてサービスの提供に努める。	
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 入寮者の高齢化に伴い行事参加率は減少傾向にあるが、弱者を対象とした、ふれあいレクリエーション等を実施することにより介護認定対象にならないよう予防に努めている。入寮率が下がってきているため、措置費用割合が減少している。	
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない H22はスプリンクラー設置関係費用が25,977千円あり、一人当たりコストが上昇している。スプリンクラー関係・県受託事業(介護プログラム雇用事業)を除いた実質一人当たりコストは7,798円となっている。	
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成	
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化(コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 手段の改善(実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化(結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化(事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合(他の事業と統合する、または廃止する) <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり	
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)	
	(1) 中長期的 介護認定者の受け入れ、それに伴う施設整備・職員構成の構築。複合施設等の構想。	(2) 24年度 介護認定者を増やさないように、きめ細やかな支援サービスを行う。
	(3) 23年度 福祉事務所等との連携を強化し、入寮者の減少に歯止めをかける。	
22年度の改善計画		
22年度の改善結果		
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること)		
課長所見	入寮者が安心して、健康的に生活出来るよう、職員一丸となって支援に努めている。	